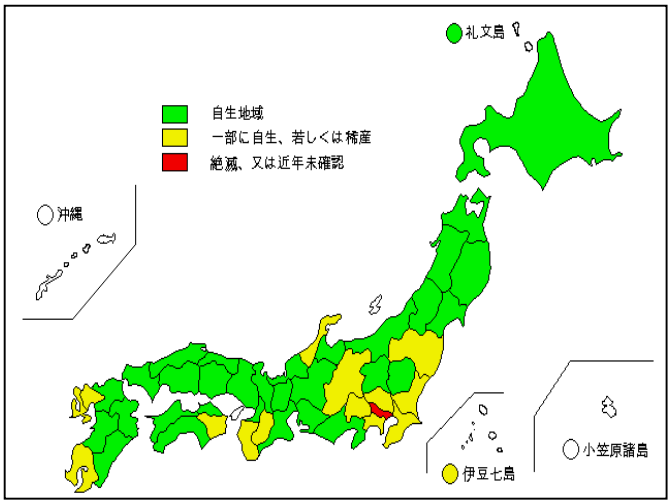
#130

コケイラン（ササエビネ）

Oreorchis patens

コケイラン（愛知県奥三河　09.5/19）

沖縄を除く全国の冷涼な山地に自生する地生蘭です。30cmほどの細長い葉が特徴で、ササエビネとも呼ばれています。本州中部地方では5月頃に50cm～1mほどの花茎を伸ばし、穂状に小さく黄色い花を複数輪咲かせ、全体的にエビネを貧弱にしたような印象です。葉が細く貧弱で、長い花茎の割には花も小さいため、エビネなど比べると観賞価値は低く見られがちです。渓流沿いの杉林下など、薄暗くかなり湿度の高い場所を好みます。地下茎はバルブを形成し、エビネのように毎年連なっていきますが、エビネのバルブほどしっかりしたものではなく、せいぜい3～5年で消滅します。このため株繁殖はあまりせず、自生地で大株を見ることは稀です。子株はちらほら見かけますので、実生で個体数を増やしていると思われますが、花付きは悪く、開花している株は少ないです。（花の時期には比較的目立つため、大株から順に盗掘されている可能性も高そうです。）



沖縄を除く全国の冷涼な山地に自生します。

コケイラン（愛知県奥三河　09.5/19）

日本の野生蘭の中では分布も広範囲に渡り、まだ比較的自生量も多いようですが、ラン科の中では目立つほうなので盗掘被害はあとを絶ちません。また、里山植物であり、湿気を好み渓流沿いや林道沿いなど暗い中でも比較的開けた場所に自生する為、道路拡張や護岸工事、宅地化などの開発によるダメージも深刻です。群落を作ることが少ないため、一度減少した個体数に対する回復率も悪く、一つの自生地での個体数減少がそのまま絶滅に繋がる可能性もあります。幸い葉の時期にはユリ科やイネ科の植物に似ておりあまり目立たないため、エビネやクマガイソウほど盗掘による圧力は受けていないようです。

Document and photo by LittleFlower 2009

観賞価値が低く商用生産はされていない為入手は困難です。山野草店やインターネットオークションではしばしば見かけますが、どちらもほぼ100%盗掘品と思われるので購入はお控え下さい。 栽培自体はエビネに準じますが、エビネに比べ、より湿度を好むことと、根、葉、バルブと全てが貧弱なことから栽培はやや神経質です。十分な風通しと湿度を確保出来る環境があれば、腐葉土を主とした用土で地植えにしてやるのが良いでしょう。 人為的に増やせば増殖率は悪くありません。バルブ吹かしが主ですが、稀に1バルブから2つの新芽を出して株増殖も致します。実生は経験がありませんが、小株が点在する自生地の状況を考えると発芽率もそれほど悪くはなさそうです。 但し、本種は野生でこそ渋い美しさがあり、鉢に植えてしまったら貧弱でみすぼらしく、すぐに飽きられてしまうはずです。開発による消失などの対策で、周辺固体の一時避難的栽培、増殖など明確な理由が無い限り栽培すべき蘭ではありません。

コケイランの葉（愛知県奥三河　09.5/19）

コケイラン（愛知県奥三河　09.5/19）

学術的に近縁種と呼べるものはありませんが、蘭菌への依

Document and photo by LittleFlower 2009